

## 永沼家住宅周辺の散策ポイント

永沼家住宅周辺には豊かな自然と長い歴史に育まれた自然遺産・文化遺産が数多く残されています。この住宅を生み出した土地についてもう少し知ってみたいという方、ちょっとばかり足を延ばしてみませんか。



蛇渕の滝

### 自然

- ① 蛇渕の滝 (大蛇伝説を伝える神秘的な滝)
- ② 鈴尾の滝 (水音が「鈴」のような優美な滝)
- ③ 九州自然歩道 (森林浴にはもってこい)
- ④ 扇谷の大銀杏 (推定樹齢約500年の巨木)
- ⑤ 材木岩 (岩の摺理が「柱材」のようです)



扇谷の大銀杏

### 楽しむ・味わう

- ① キャンプ場 (蛇渕の滝のそばです)  
\*研修施設「こだま荘」もあります
- ② 帆柱茶 (風味豊かなお茶です)
- ③ 山の幸加工品 (お味噌や漬物など)  
\*町内の販売所 (四季屋館等) でお求めいただけます
- ④ 馬落渓谷 (渓流遊びに最適)
- ⑤ 河川プール (自然水の遊び場です)  
\*伊良原地区にあります



木地師の墓



英彦山道 (路傍の「幸神様」)

### 歴史・文化

- ① 小椋の墓 (悲劇のヒロインが眠ります)
- ② 木地師の墓 (「木工の里」の語り部たち)
- ③ 英彦山道 (「権現さん」へのまいり道)
- ④ 大山祇神社 (ムラの鎮守の「山の神」)
- ⑤ 神楽 (数百年の歴史をほこる民俗芸能)

この地は靈山の山ふところという環境から、独特の文化が育まれました。山里に生きた人々の足跡に触れてみてください。

## ■永沼家住宅周辺マップ■



## ■永沼家住宅へのアクセス (行橋市方面からの場合) ■

公共交通	JR行橋駅	平成筑豊鉄道 約20分	犀川駅	ミニバス 約30分	帆柱	徒歩 約20分	現地
タクシー マイカー	JR行橋駅 (国道496: 約60分)		平成筑豊鉄道犀川駅 (県道239+国道496: 約30分)				



## ■永沼家住宅の公開状況■

- 4月～12月第2週目までの日曜日 10～16時 (但し12～13時は除く)
- 公開日時は管理者の都合により予告なく変更されることがあります
- 公開日以外の見学を希望される場合は、事前に下記へご照会ください
- 個人の住宅ですので見学上のマナーを守ってください

■永沼家住宅に関するお問い合わせ■

みやこ町教育委員会(文化係)/みやこ町歴史民俗博物館

TEL : 0930-33-4666 FAX : 0930-33-4667

## みやこ町の自然・文化遺産

国指定重要文化財  
Japanese Important Cultural Properties

ながぬまけじゅうたく

# 永沼家住宅

The house of the Naganuma family



「永沼家住宅」全景（晩秋の薄暮）

## ■「永沼家住宅」の概要■

- 指 定 種 有形文化財 (建造物)  
数 量 1棟  
所 在 地 福岡県京都郡みやこ町犀川帆柱721番地  
所 有 者 個人  
(管理者) 永沼家住宅保存協力会 (管理・公開協力)  
指定年月日 昭和52〔1977〕年1月28日  
成立年代 江戸時代後期 (天保12〔1841〕年)  
法 量 行20.048m 梁間10.906m 軒高10.338m  
特 徵 当地方の代表的直屋農家で詳細な普請記録が残る

ふくおかけんみやこぐん  
福岡県京都郡みやこ町  
Fukuoka-ken Miyako-gun Miyako-machi

# ながぬま け ようこそ「永沼家住宅」へ

永沼家住宅は今から180年ほど前に建てられた豊前地方を代表する住宅建築で、簡素なたたずまいの中に、その長い歴史にふさわしいたくさんの情報が伝えられています。これからその一部をご紹介しましょう。

## 1. 永沼家住宅の位置と環境

永沼家住宅はわが国有数の靈山・英彦山の北麓に位置し、祓川左岸の造成地に作られています。住宅のある帆柱地区は現在の視点では山あいの小村にしかすぎませんが、江戸時代当時は英彦山や求菩提山といった靈山のほか、添田・日田・宇島（豊前市）・行事（行橋市）といった北豊の拠点都市へつながる幹線・準幹線路が交差する交通上の要地でもありました。

## 2. 永沼家について



この住宅の主である永沼家は、江戸時代を通じて地元・帆柱村（当時）の長である「庄屋」をつとめたほか、帆柱村を含む15ヶ村を束ねた行政単位「節丸手永」の代表・「大庄屋」を何度もつとめたことがある地区有数の旧家です。

なお、江戸時代以前の同家は、鎌倉時代には帆柱地区の産土神・大山祇神社の宮柱をつとめ、すでに村での中心的存在だったと伝えられています。また戦国時代には中豊前方に勢力を誇った国人・城井（宇都宮氏）の被官にもなっており、天下統一後はその経験を買われて庄屋・大庄屋に任命されたとみられます。

ちなみに同家は現在も存続し、引き続き先祖伝来の住宅や土地と関わりながら暮らしています。

## 3. 永沼家住宅の概要と特色

永沼家住宅は桁行十間（約20m）・梁間五間半（約11m）の規模を持つ、入母屋造り茅葺きの直屋（平面が長方形となる家屋構造）民家です。崩落防止のため二重に築かれた石垣の造成地上に東向きにたてられています。



永沼家住宅内部（台所から「ひろま」を見る）

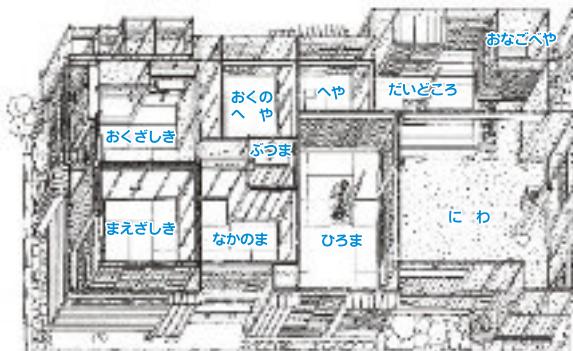
永沼家住宅内部（「おくざしき」=客間）

## ■「家建諸控帳」が語る家普請の流れ■



家建諸控帳（外装）

永沼家住宅には通常「普請帳」と呼ばれる家普請（建築）の記録「家建諸控帳」があります。この帳面には家普請に関する詳細な事項（着工からの日数のほか職人名・賃金・上棟式の準備や祝儀記録など）が記されておりこの住宅を知る貴重な資料となっています。ちなみに上棟式は天保11（1840）年3月17日、総勢120人の客を招いて行われ、その費用は魚介類購入費のみで2貫520文だったと記しています。



永沼家住宅の間取り（注：（財）文化財建造物保存技術協会編「永沼家住宅修理工事報告書」より転載）



家建諸控帳（第16頁）

森太与國善伝武伝磯良利与日出	六木	竹伐・快藏	大子
幸理七代兵右衛門門	木出	木出	工正入五月五日
四藏平門	し	出	
木出	仁十宗善幸勇善之太武岩古門	右五出	
文遺入貞光門	右右左左四左右久	右木右	
市治門	右作衛助助衛門門	衛郎治平し平治郎郎蔵右丞郎	
	門	衛門門	衛門門

家建諸控帳（同上活字訳）

※1：「彦四郎」は地元帆柱村（当時）在住の大工。同じ村の「伝之丞」とともに、永沼家建築の年である天保10年、小倉藩から本丸屋敷の再建工事への参加を要請されるほどの腕利きであったことが知られている。

※2：各地から職人が招かれたとみえ、好右衛門（櫻木〔中津藩〕）のように藩境を越えてやってきた者も数人いる（日田〔天領〕・玖珠〔森藩〕・広島〔広島藩〕など）。



永沼家住宅内部（天井の小屋組み）



永沼家住宅内部（「つじにかい」=中二階）

構造は梁間四間・桁行九間に牛梁と大梁をそれぞれ一間ごとに架け渡したもので、大梁上には小屋束を二通りに立てて二重梁を架け、叔首を組んでいます。また、正面と両側面には半間幅の化粧軒も設けていました。

平面は三間取りの広間型住居に二室を加えたもので、南西隅から反時計回りにおく・まえざしき（書院付き客間）、なかのま（式台〔特別な家に許された板敷〕付き玄関）、仏間、ひろま（居間）にわ（作業場〔土間〕）、おなごべや（女中部屋〔板敷〕）、台所〔板敷〕、へや、おくのへや（寝室）といった間取りがなされています。

天井は客間系が竿縁、居間系が根太、作業場系が吹き抜けとなるほか、へやのうえにはつし（じ）二階〔板敷〕が作られるなどしています。

総じてこの住宅は簡素で整った意匠による普請がなされ、その状態がほとんど改変を受けることなく現在へ引き継がれている点、普請記録が残されて正確な建築年代が判明する点で貴重な建築とされています。

なお、建物は現在は母屋のみとなっていますが、かつては敷地内や周辺に門、馬屋、蔵、粉ひき場などの施設があって、大庄屋も経験した旧家にふさわしい豪壮なたたずまいが見られたということです。

## 4. 永沼家住宅の解体修理について

住宅各所の傷みも激しくなった昭和62〔1987〕年、築後初めての全面解体修理が国・県等の助成を受けて1億1千万円余りの費用をかけ、3年がかりで行なわれました。この修理では腐朽材を取り替えるとともに建築当初の形状の復元が行われ、住宅は往時の姿と簡素な美しさを150年ぶりに取り戻しました。



大正時代（約100年前）の永沼家住宅



永沼家住宅解体修理の様子（注文献より転載）

なお修理工事とともにさまざまな調査が行われ、築造開始が記録どおりの天保10年であること、記録では知られなかった工事の終了時期が2年後の天保12年らしいことのほか、今までの修理工事の経過や建築に関わった人々の来歴など、住宅にまつわる様々な事実が明らかにされました。